

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆  
♪ジョイコン NEWS♪  
第59号(2023年4月)  
★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

2013年に第1回コンサートを開催してから早くも10年が経ちました。  
ここまで継続できたのは、毎回多くのお客様にご来場頂いたこと、このメールマガジンの読者の皆様はじめ、多くの方々からのご支援があったからこそ、深く感謝しております。  
コロナ禍による中断や会場の移転などもありましたが、これからも年6回公演を続けてまいります。  
引き続き「ジョイコン」を宜しくお願い申し上げます。

10周年を記念して地域情報誌『タウンニュース』（横浜市港北区版）が記事を掲載してくれました。  
ジョイコンのウェブサイト（「ニュース」ページ）にも記事を転載しておりますのでご覧頂ければ幸いです。  
<https://www.ohkurayama-joycon.com/%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%82%B9/>

それでは、「♪ジョイコン NEWS♪」（第59号）をお届け致します。

\*\*\*\*\*  
【もくじ】

- 【1】次回コンサートのご案内
  - ◆第62回コンサート
- 【2】今後の予定（先取り情報）
  - ◆第63回コンサート
- 【3】「ピアノの詩人」と「ピアノの魔術師」
- 【4】コンサートのアンケートから

\*\*\*\*\*  
【1】次回コンサートのご案内（予約受付中）

- ☆☆第62回コンサート☆☆  
◇2023年5月21日（日曜日）14時開演  
◇出演：鈴木隆太郎（ピアノ）  
◇プログラム（予定）
  - ◆ショパン：華麗なる円舞曲 変イ長調 作品34-1
  - ◆ショパン：バラード第2番 へ長調 作品38
  - ◆ショパン：バラード第3番 変イ長調 作品47
  - ◆ショパン：マズルカ イ短調 作品17-4
  - ◆ショパン：バラード第1番 ト短調 作品23
  - ◆ショパン：スケルツォ第3番 嬰ハ短調 作品39
  - ◆リスト：超絶技巧練習曲 第11番「タベの調べ」S.139-11
  - ◆リスト：スペイン狂詩曲 S.254  
◇料金：大人・高校生2,000円、中学生以下1,000円  
◇会場：横浜市港北公会堂（東急東横線 大倉山駅より徒歩7分）

第62回ジョイフルコンサートは、  
『鈴木隆太郎 ピアノ・リサイタル～パリ在住のピアニストが紡ぐショパンとリスト～パリで出会い交錯した二人の世界』と題して、お届けします。

\*\*\*\*\*  
鈴木隆太郎さんからメッセージが届いています  
\*\*\*\*\*

来る5月21日の演奏会に出演いたしますピアニストの鈴木隆太郎です。  
僕は2008年からフランスに留学し、現在は当地を拠点に演奏活動を行っていますが、大倉山には高校のころ和声のレッスンでずっと通っていて、そこにプロの演奏家として戻って来て演奏できるというのは感慨深いものがあります。  
今回の演奏会では共にパリが活動拠点の一つであったショパンとリストの作品を演奏します。皆様是非楽しみにお越しくださいませ。（鈴木隆太郎）

\*\*\*\*\*

次回のジョイフルコンサートは鈴木隆太郎さんのピアノソロコンサートです。  
パ리에縁の深い作曲家ショパンとリストの曲を演奏していただきます。  
個人的に大好きな曲ばかりでとても嬉しいです。

☆ショパン/マズルカ イ短調 作品 17-4

○ショパン/マズルカ

ショパンは「ピアノの詩人」と呼ばれていて、ショパンの曲は大人気です。  
地味だと言われますが、ショパンのマズルカについてご紹介したいと思います。

マズルカはマズール、オベレク、クヤヴィアクなどポーランドの民族舞踊の音楽に基づいて、ショパンが作った作品です。  
50曲以上作られています。

マズルカは3拍子ですが、マズールの踊りの特徴として2拍目か3拍目にアクセントが来ることが多いです。  
マズルカを弾く時はワルツにならないようにと注意されました。  
オベレクはとてもスピードの速いダンスで輪になって踊ったり、躍動感があります。  
クヤヴィアクはとてもゆっくりしたテンポの踊りで、結婚式に新郎新婦が踊ったりします。

もちろんしっかり形式は考えられているとは思いますが、ショパンはマズルカを日記のように書いていたという人やマズルカはショパンにとってライフワークだったともいう人がいます。

1曲は短めであまり大曲はありません。  
どちらかというと華やかさには欠け、地味な印象なので大きく取り上げられることは少ないかもしれません。

どうしてもショパンと言えば、「英雄ポロネーズ、華麗なる大円舞曲、革命のエチュード」など華やかで、ダイナミックな曲が目立ちますよね。  
マズルカを聴く時に、この部分はどの踊りの曲を元に作られているのか？と考えながら弾くとまた楽しいですよ。

○マズルカ イ短調 作品 17-4

Lentoのゆっくりの曲です。  
クヤヴィアクを元に作られているのでしょうか？  
物悲しい和音の連続から始まります。  
その部分が踊りというよりは私にはどうしてもとぼとぼと誰かが歩いているように聞こえてしまいます。

マズルカの特徴は3拍子で4小節が1つのメロディーですが、その通りの作りになっています。  
最初の和音の部分が導入部、その後A-B-A' コーダの構成です。  
Aの部分は短調の物悲しいメロディーで始まります。  
Bの中間部は長調に転調しますが、左手がずっと5度の2音の伴奏が続き、それが空虚な空気を醸し出します。  
また主題のAに戻り、最後のコーダは静かにはかなくすべてが消えていくようです。  
しみじみと心に沁みる曲です。

どうぞお楽しみになさってください。(A.N)

■予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

\*\*\*\*\*

## 【2】今後の予定（先取り情報）

---

★☆第63回コンサート☆☆

◇2023年7月16日（日曜日）14時開演

◇出演：鈴木舞（ヴァイオリン）、實川風（ピアノ）

◇プログラム（予定）

◆サン=サーンス：ロマンス ハ長調 Op. 48

◆サン=サーンス：ヴァイオリン・ソナタ 第1番 二短調 Op. 75

◆サン=サーンス：序奏とロンド・カプリチオーソ イ短調 Op. 28

ほか

◇予約受付開始：2023年5月22日（月曜日）午前9時より

★プログラム等詳細は順次、本紙面、ウェブサイト、チラシ等でお知らせします。

\*\*\*\*\*

## 【3】「ピアノの詩人」と「ピアノの魔術師」

---

次回コンサートのキャッチコピーは、“パリで出逢い交錯した二人の世界”です。  
この二人とは、ショパン（1810-1849）とリスト（1811-1889）を指しています。

1830年、ショパンがウィーンへ旅行中、母国ポーランドでロシア帝国の支配に対する武装蜂起（11月蜂起）が勃発しますが鎮圧されてしまいます。母国へ戻るができなくなったショパンは、1831年9月にパリに移住します。

一方、リストは1823年にパリに来ていて超絶技巧とパフォーマンスで聴衆を圧倒するスーパースターでした。

その様な二人がパリで出逢い意気投合し、演奏会にも出席しあい、互いに作品を献呈しあい、音楽的な交流を深めたと言われています。

当時のパリには二人と同年代の音楽家や芸術家がたくさんいました。その中でも交流があったとされているのが、ベルリオーズ（1803-1869）、シューマン（1810-1856）、メンデルスゾーン（1809-1847）など今では有名な作曲家たちです。

またハイネ（1797-1856）、バルザック（1799-1850）、ドラクロワ（1798-1863）などの芸術家とも交流していたそうです。

二人の演奏スタイルや好みは全く違っていました。

大ホールで鳴り響くリストのピアノに対して、ショパンの演奏は繊細で柔らかく、絶妙のタッチと独特のテンポで人々を魅了するもので、場所はおそらく少人数が集うサロンでした。

愛用したピアノも全く違って、ショパンは軽いタッチで柔らかい音のするプレイエルのピアノを好み、リストは派手で大音量の出るエラールのピアノを好んだと言われています。

ショパンとジョルジュ・サンド、リストとマリー・ダグー伯爵夫人との関係でショパンとリストは一時期疎遠になります。しかし長生きだったリストは、ショパンの死後も演奏会のプログラムにショパンの作品を加えました。

現在のようにショパンの曲が人々に知られ広まったのはヨーロッパ各地でショパンの曲を演奏してまわったリストの功績が大きいと言われています。

ショパンとリストは対極な演奏スタイルでありながら、パリで同じ時間を過ごし、そしていろいろな意味で交錯したライバルであり友人でもありました。

繊細で美しい旋律を奏でるショパンは「ピアノの詩人」と呼ばれ、一方リストは「ピアノの魔術師」と呼ばれ今や多くの人々を魅了し続けています。

パリ在住のピアニストが二人の作品をどう紡ぎ弾き聴かせてくれるのか、ぜひお楽しみください。（でくのぼう）

\*\*\*\*\*

## 【4】コンサートのアンケートから

---

前回のジョイフルコンサート（3月19日公演）『古楽器で奏でる18世紀フランスのサロン音楽～パリジャンの愉しみ』は如何でしたか？

「Web アンケート」には、演奏のご感想や運営について、今後のご希望など貴重かつ熱心なコメントを頂きました。今回もその一部をご紹介します。

アンケートでの質問「今回のコンサート内容はいかがでしたか？（５段階評価）」に対し、「大変良かった」側の「５」が 76%、「４」が 19%という極めて高評価でした。

自由記入欄の「演奏のご感想」では、  
『演奏とても良かったです。４人のハーモニーが素敵でした。ドーム型の反響板が包み込んでいるようでした。演奏者の声も聞けたしプログラムも良かったです』『とても美しい演奏でした。曲や楽器の説明もわかりやすかったです。優雅な時間を過ごせました』『完成度の極めて高い、素晴らしい演奏会でした。ブームに流されることなく着実に腕を磨いてきた演奏家の皆さんに拍手』など演奏の素晴らしさに感動されたとのことのご感想が数多く寄せられました。

「運営について」では、  
『受付がスムーズでスタッフの方たちが熟練されているのを感じました』『いつも楽しみです。今後も企画を続けて下さい』や『開始前のアナウンスで、携帯の注意が２回あったこと、のど飴についての注意があったことはとても良いと思います』などのコメントが寄せられました。  
これからも、頂いたご意見、ご提案は引き続き検討し運営を改善してまいります。  
アンケート回収数:42（回収率 20%）

\*\*\*\*\*

#### 【編集後記】

鈴木隆太郎さんは大倉山在住の作曲家・平井京子さんからのご紹介でした。  
「私が楽典を教えている生徒で栄光学園の子なんだけど、栄光の管弦楽団とベートーヴェンのコンチェルト弾くからよかったら聴きに行ってくれない？」と言われたのが最初です。

話を聞いてみると、卒業後はパリ国立音楽院に留学予定でした。  
栄光学園は有名な進学校です。  
そんな人がいるなんてそれだけでびっくりでした。

鈴木さんは逗子の小学校を卒業されているとお聞きしたので、逗子の友達に聞いてみました。  
返ってきた返事は「ピアノも上手で、頭も良くて小さい頃から有名！」でした。

あれから 10 年以上経ったでしょうか？  
今回ソロリサイタルが実現することになり、本当に嬉しく思います。  
演奏を楽しみに待ちたいです。(A.N)

\*\*\*\*\*

※このメールマガジンは、大倉山ジョイフルコンサートのアンケート等で「コンサート情報」を希望された方に配信しております。

- 次回予約申し込みはこちら  
ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>  
予約専用電話：080-8424-5108
- バックナンバー  
メールマガジンのバックナンバー（PDF ファイル）はこちら  
ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>
- 配信停止／アドレス変更  
メールマガジンの登録、配信停止、アドレス変更はこちら  
<mailto:info@ohkurayama-joycon.com>

発行：大倉山ジョイフルコンサート実行委員会  
Eメール <mailto:info@ohkurayama-joycon.com>  
携帯電話 080-8424-5108  
URL <https://www.ohkurayama-joycon.com/>